

【短報】奥多摩町から採集されたクロツヤツツホソカタムシの記録

クロツヤツツホソカタムシ *Teredolaemus politus* (Lewis, 1879) は、ムキヒゲホソカタムシ科の小甲虫である。

本種は Lewis (1879) によって *Teredus* 属のもとに記載され、のちに Sharp (1885) は本種をタイプ種として *Teredolaemus* 属を創設した。Lewis (1879) は記載時に本種の産地を「南日本」としか記述しなかったが、Sharp (1885) は Lewis の採集した標本が「Konose in Higo」で得られた7個体と記しているの、江崎 (1953) および草間 (1971) が Lewis による九州での採集行について詳述した文章を読むと、タイプ産地は熊本県の球磨川流域の神瀬(こうのせ)だと考えられる。現在、本種が確認されているのは、本州、隠岐、四国、九州、対馬、屋久島、奄美大島である(青木, 2012, 2013)。同属種アトキツツホソカタムシ *Teredolaemus guttatus* Sharp, 1885 にくらべて採集例は少ない。

本州での確認域の東限は、日本海側は石川県、太平洋側は関東地方である。筆者も関東地方で本種を確認しているので報告する。

2 exs., 東京都西多摩郡奥多摩町日原一石山～人形山(標高 900-1,050 m), 21. VI. ~ 13. VII. 2014, 筆者採集・保管。

東京都初記録。ブナ、ミズナラを主体とした落葉広葉樹林内に設置したフライト・インターセプション・トラップによって捕獲された。トラップは渡辺(2009)を参考に作製され、木の下枝にぶら下げ、地上1mほどの位置に衝突板がくるように設置していた。

本種は、分布域南部では亜熱帯林から確認され、本州からは佐々治(1998)、岩瀬ら(1991)、青木(2009)、

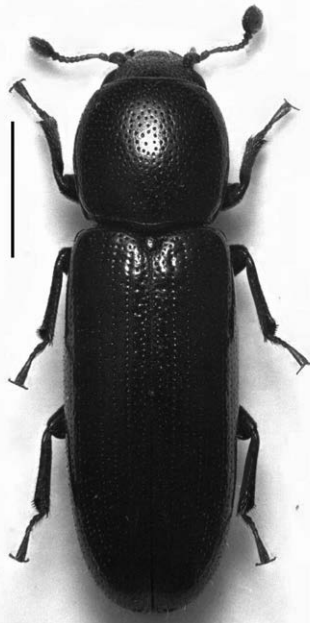


図1. 奥多摩町産クロツヤツツホソカタムシ(スケールは1 mm)。

生川ら(2006, 2011)で示された採集例のように、照葉樹林帯での確認が多いが、今回の記録のようにブナ-ミズナラ林からも見つかることがある。

引用文献

- 青木淳一, 2009. ホソカタムシの誘惑. 194 pp. 東海大学出版会.
 青木淳一, 2012. 日本産ホソカタムシ類図説. 92 pp. 昆虫文献六本脚.
 青木淳一, 2013. ホソカタムシの誘惑 [第2版]. 211 pp. 東海大学出版会.
 岩瀬和夫・大坪 広・久保浩一・志村 宝・渡 弘, 1991. 円海山域で採集した神奈川県未記録の甲虫類(その3). 神奈川虫報, (95): 12-14.
 江崎梯三, 1953. 外国人による九州の昆虫採集. 新昆虫, 6(3): 2-7.
 草間慶一, 1971. ジョージ・ルイスの足跡について(上). 月刊むし, (8): 18-23.
 Lewis, G., 1879. On certain new species of Coleoptera from Japan. The Annals and Magazine of Natural History, (5): 459-467.
 生川展行・市橋 甫・天春明吉・市川 太・稲垣政志・官能健次・前川和則・横関秀行, 2006. 熊野灘沿岸照葉樹林の甲虫類, 63-188pp., 三重昆虫談話会編, 熊野灘沿岸照葉樹林の昆虫.
 生川展行・中山 惇・岡 由佳理・横関秀行・稲垣政志・官能健次・市川 太, 2011. 志摩半島の甲虫. 66-195pp., 三重昆虫談話会編, 志摩半島の昆虫.
 佐々治寛之, 1998. 福井県の日本海域の島艇と半島沿岸域の昆虫, 特に甲虫類の生物地理学的特質. 福井大学地域環境研究教育センター研究紀要「日本海地域の自然と環境」, (5): 29-54.
 Sharp, D., 1885. On the Colydiidae collected by Mr. G. Lewis in Japan. The Journal of the Linnaean Society. Zoology, 19: 58-84, pl. 3.
 渡辺昭彦, 2009. 吊下げ式簡易型屋根付き FIT とその作り方. 甲虫ニュース, (166): 7-9.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

【短報】シリトゲヒメジョウカイモドキの宮古島の分布記録

シリトゲヒメジョウカイモドキ *Stemodeattas chujoi* Wittmer, 1970 は、石垣島でのみ知られているジョウカイモドキであり、他からの報告はない



図1. シリトゲヒメジョウカイモドキ(左♂, 右♀)。

(佐藤, 1985). 筆者は次のように宮古島で本種を採集しているので, 採集状況で若干気になった点を加え報告する(図1).

1♂5♀♀, 沖縄県宮古島市城辺保良東平安名崎(宮古島), 29. III. 2014, 筆者採集, 1♂1♀ 浅野氏・4♀ 筆者保管.

東平安名崎(ひがしへんなさき)は宮古島の南東に長く伸びる岬であり, 風光明媚な観光地となっている. 本種は岬先端部に生えるイリオモテアザミ *Cirsium brevicaule* var. *irumtiense* の花に多数見られた. 花上で交尾をしていた1ペアと, ランダムにフリーでいた4個体を採集したが, 交尾個体の♂以外は全て♀であった. たまたま採集した個体が♀ばかりだったのか, イリオモテアザミ花上に♂が少なかったのか, 多数いた中からもっと追加

個体を採集しなかったことが悔やまれる.

宮古島では熱帯植物園, 大野山林, 野原岳と, さらに橋で繋がっている池間島, 来間島と採集して回ったが, 他所では本種を見出すことが出来なかった.

最後に, 報告にあたり本種であることの確認および本種の分布を教えて頂いた浅野真氏, 標本の転送の労を引き受けて頂いた吉富博之博士に感謝したい.

引用文献

佐藤正孝, 1985. ジョウカイモドキ科, pp.163-167. 原色日本昆虫図鑑(III), 保育社, 大阪.

(出嶋利明 769-0101 高松市国分寺町新居 2300-7)



Jäch M.A. & J.A. Delgado, 2014. Revision of the Palearctic species of the genus *Ochthebius* Leach XXIX. The Asian species of the *O. vandykei* group. *Koleopterologische Rundschau*, 84: 81-100.

海岸性甲虫であるクロコブセスジダルマガムシ *Ochthebius granulatus* M. Satô, 1963 の分類学再検討が行われた. 本種は日本各地から報告されていたが, 著者らの再検討により, 5種に細分され, 未記載の4新種が記載された. また, 韓国からも2新種が記載され, アジアには合計7種が分布することが明らかになった.

現時点ではすべての種が異所的に分布していることになり, 海岸性甲虫類の顕著な種分化の例として注目される.

なお, クロコブセスジダルマガムシは *Neochthebius* 属とされていた時期もあるが, 著者らは元の *Ochthebius* 属に戻している.

著者らは日本人ではないため, 新種に和名がない. 既知種のリストと合わせて日本産種の和名の提唱も行っておく.

1. イセコブセスジダルマガムシ *Ochthebius* (s.str.) *asanae* Jäch & Delgado, 2014 (三重県)
2. イズモコブセスジダルマガムシ *Ochthebius* (s.str.) *hayashii* Jäch & Delgado, 2014 (島根県)
3. セトコブセスジダルマガムシ *Ochthebius* (s.str.)

matsudae Jäch & Delgado, 2014 (山口県, 愛媛県? ※)

※クロコブセスジダルマガムシのパラタイプには愛媛県産の標本も含まれているが, セトコブの可能性が高い. この標本の状態が悪く, 本論文では扱いが保留されている. 現在まで再発見されていない.

4. キタコブセスジダルマガムシ *Ochthebius* (s.str.) *yoshitomii* Jäch & Delgado, 2014 (北海道, 岩手県, 佐渡島? ※, 国後島; 極東ロシア)

※佐渡島の標本はキタコブの可能性が高いが, 雌のみだったため, 本論文では扱いが保留されている. 北海道では広く分布する普通種.

5. クロコブセスジダルマガムシ *Ochthebius* (s.str.) *granulosus* Satô, 1963 (千葉県, 神奈川県, 静岡県, 三宅島 ※)

※本種の担名タイプの産地は三宅島であるが, 吉富による調査では, 再発見できなかった.

6. 和名なし *Ochthebius* (s. str.) *parki* Jäch & Delgado, 2014 (韓国)

本種の幼虫は Park & Ahn (2008) により記載されている.

7. 和名なし *Ochthebius* (s. str.) *ahni* Jäch & Delgado, 2014 (韓国)
8. 和名なし *Ochthebius* (s. str.) *vandykei* Knisch, 1924 (カナダ; USA: カリフォルニア)

(林 成多・吉富博之)